

糖液・木酢液を越えた 有機酸1番搾り

荷姿 20ℓ入り
(フレキシブル容器入り)

開発の意図

バイオグリーン研究所では、「木酢液」を安定して大量に作り出すことを目的として「木を燃やして出る煙より抽出する」という従来の方法とは別な製造方法を開発致しました。

製造方法

糖を原料とした「微生物醸酵抽出」により、安定した高濃度の「有機酸」を取出すことに成功致しました。この方法では、木酢液の難点でありましたフェノール類のような不純物や、ホルムアルデヒドのような有害物質の混入の心配がありません。

糖質の補給としても最適

糖そのものは、植物に吸収されません。
ブドウ糖液や砂糖液に植物を漬けておいても
甘くならないのはこの為です。
一端、微生物により醸酵させて「有機酸」に
すると、TCA（トリカルボン酸）回路により
取込まれ、活動エネルギーの源泉となります。

効果

草勢の回復、擦切れの回復、ディボットの回復増進、活着促進。
芝草の葉色改善、冬季・梅雨期・夏季のヘダレ防止、栄養補給。
病害虫に強い芝草育成、土壤のアルカリ化防止、土壤金属の活性化。

使用方法

通常500倍～1000倍液で使用して下さい。1m²あたり1リットルの散布をして下さい。月に1回～数回の使用が効果的です。
天然成分ですので、多くの農薬や液肥との混用が可能ですが、アルカリの強い資材との混用は避けて下さい。

多糖類の合成

植物の細胞壁は、数種の「多糖類」でできています。その主な「多糖類」である「セルロース」は、グアノシン二リン酸グルコースを中間物質として「ブドウ糖」よりつくられます。同様に「ヘミセルロース」もウリジン二リン酸キシロース、ウリジン二リン酸グルクロン酸を中間物質として「ブドウ糖」よりつくられます。その変化を説明しますと、「ブドウ糖」は、植物の呼吸によりATP（アデノシン三リン酸）からリン酸基の転移により「ブドウ糖リン酸」となり、更に、GDPと反応してGDPグルコースとピロリン酸塩を生成します。GDPグルコースは、グルコースをセルロース鎖に移して、「セルロース」を生成します。

「ブドウ糖」は、植物自身が「水」と「空気中の二酸化炭素」と「光」から作り出します。これを「光合成」と呼んでいます。

糖類の補給

植物に「糖」を「葉面散布」する作業をしている農家の方もおられます。しかし、「糖」そのものでは、葉面からの吸収はほとんどされません。特に「オリゴ糖」は葉面で分解されず、吸収効果はあまり期待できません。「砂糖」もほとんど吸収されません。「ブドウ糖」はいくらか吸収されるようです。但し、その量は微量であり、養分としては、あまり役立ちません。もし、そのままの形で吸収されれば、野菜や苺、トマト、柿、蜜柑、大根などは、立所に甘くなりそうです。

また、この方法は、①害虫の被害を受けやすくしてしまう②病原の侵入を促してしまう③「葉」からの吸収と植物体内での移動性、活用度に疑問がある、などの欠点があります。

「有機酸1番搾り」は、「糖蜜」「砂糖」（麦芽糖）「オリゴ糖」などを「乳酸菌」（ラクトバチルス）「酵母」などによって醸酵分解させた「有機酸」の「1番搾りの液」であり、「木酢液」「竹酢液」などの主成分の「有機酸」と同類の有機酸を、より多く安定した形で、高濃度に含有しています。

「有機酸」に変化させてある為、①製品に安定性がある②pHが低くなり、病害菌の抑制的効果が出てくる③害虫の忌避的効果が出てくる④植物の吸収性と活用度が高くなり、有効性が高くなっているなどの「糖類の補給」に留まらない効果が出てきます。安全で、効果的な資材であり、高濃度で使用して、ディボットの回復や芝芽の改善に活用されているグリーンキーパー様もおられます。色出し、植物の糖分の補給に最適な資材と言えます。

お問合せ先・販売店

バイオビジネス
普及会